

平成 28 年度 住吉高等学校 第 2 回学校協議会

1. 日 時 平成 28 年 10 月 14 日（金） 午後 5 時 30 分～午後 7 時
2. 場 所 大阪府立住吉高等学校 北畠会館
3. 協議委員 大阪大学名誉教授・台湾大学客座教授
放送大学客員教授 笠井 俊夫 様
大阪大学ナノサイエンスデザイン
教育研究センター特任教授 奥山 雅則 様
大阪市立昭和中学校 校長 田積 直子 様
住吉高校後援会会長 波々伯部 益尚 様
住吉高校 PTA 会長 宮川 玲 様
ベネッセコーポレーション大阪支部 今井 貴文 様

（本校出席者）

学校長、教頭、事務長

久世、白川、斉藤、兼田、藤井、澤木、木村（司会）、森口、加藤、清水

4. 本年度の本校の取り組み報告 （報告者：学校長）
- （1）本年度の学校経営計画及び学校評価の進捗状況について
 - （2）進路指導部報告
 - （3）平成 28 年度「骨太の英語力養成事業」について
 - （4）平成 28 年度 4 月～9 月における国際交流行事の記録
 - （5）SSH の取り組みについて
 - （6）平成 28 年度 4 月～9 月におけるユネスコ活動
 - （7）生活指導部の取り組み報告
 - （8）SIC 改革
 - （9）教科書採択に関する資料

5. 学校経営計画および評価＜協議＞

◆ 「中期的目標の 3 本の柱」が提示された。

- ① 学力向上
- ② 国際科学としての取り組み
- ③ ユネスコスクールとしての豊かな人材

なお、全体協議に関しては、「学力向上」「進路指導及び生活指導」「SSH」の 3 点について行われた。

〔Ⅰ．学力向上〕

- ＊ 単に知識を増やすことが学力向上につながるとは言えない。
- ＊ 基礎知識が無い状態では、アクティブ・ラーニング（AL）はできない。
- ＊ 事象に対する理由について、イメージは大事ではあるが顕在化されていない。
- ＊ 「思考力・判断力・表現力の育成」が求められているが、好き勝手に表現すれば良いというものではない。個人で「なぜそう考えるのか」を考える癖をつける。
- ＊ 学力問題の背景には貧困問題が関係する可能性もありうる。
- ＊ 大学入試の制度が、現中学2年生から変わると言われている。その一方で、その制度そのものの運用性が見えていない。高等学校での教育も、どこかで方向転換を余儀なくされる。

〔Ⅱ．進路指導および生活指導〕

- ＊ 進路指導については「子どもたちがどうしたいか」が大事である。
子どもの考えをくみ取って学校全体が動き、進路の希望をサポート（具体的な指導）する。
- ＊ 「国公立大学に何人の生徒が進学したか」で高校のレベルが測られている傾向がある。
- ＊ 指定校推薦の制度があると、子どもの能力が頭打ちになるのではないかな。
← 入学時にはある程度進路を決めている生徒が多い。卒業を控えて安易に指定校推薦に流れているというわけでもない。
- ＊ 今年（H28）の1年生は国公立志望が約半数を占め、「市大・府大レベル（A2）」に現時点では達している。家庭での学習時間は1年生の平均で59分だったので、ポテンシャルが高いと思われる。もう少し学習時間を増やせば進路の幅（可能性）が広がるのではないかな。（ベネッセ分析）
- ＊ あまりにも行事が多いので、行事の検討を行い、生徒の学習時間を確保すべきである。

〔Ⅲ．SSH〕

- ＊ SSHを来年度以降も続けていくためには、報告書等でいかに有効にアピールするかが大切である。
- ＊ SSH指定の取組みは全校体制で進め、国際文化科とも協力して続けていく。
- ＊ SSHというブランドがなければ他の学校や人からの見方が変わるのではないかな。
- ＊ SSH特有の教育のみではなく、行事やクラブ活動などさまざまな教育活動も重要である。
極論だがSSHがなければ大学進学への学習がより進められ、生徒の進路の幅が広がるのではないかな。

6．総評

- ◆ 総合科学科と国際文化科のさらなる連携強化を進め、国際共同研究発表会などグローバルな視点での活動も取り入れながら、第3期SSH指定も必ず全教員で取りに行くという強い信念を持ちながら押し進めてきたい。
- ◆ 習得した知識をどのように組み合わせるかを考えて、実際に使う場面を与えることで、思考力・判断力・表現力の育成につながり、最終的には自分で課題を解決する力を付けさせたいと考えている。

7．学校長謝辞

＜第3回 学校協議会の予定 実施日程：平成29年2月24日（金）夕刻＞